

理事長コラム

「いつもの毎日」や
「当たり前の日々」を考える

Topix

「新しい仲間が増えました」他

障害者福祉は今

「障害者権利条約について」

2013年度 決算公告

居宅支援

「変わらない必要なニーズ」

生活介護 こっから

「4月になって」

就労移行支援 すたあと

「施設外就労」

就労継続B型 ここに

「ここに市 2014 春」

ご寄贈

編集後記



「いつもの毎日」や「当たり前の日々」を考える

社会福祉法人こぶしの会 理事長 藤井 正紀

元気に「おはよう！」とか「理事長！」と声をかけてくれる人、少し手を挙げて「にこっと」挨拶してくれる人、恥ずかしそうにうつむく人、「誰？」とわれ関せずの人、等々、仲間の人たちとの相も変わらない「いつもの毎日」が、今も続いています。

こぶしの会も今年で 13 年目を迎え、新たなスタートが各事業所で始まりました。

今回はこの「いつもの毎日」や「当たり前の日々」について考えてみたいと思います。

この「いつもの毎日」は、何ものなければ日常の一コマで、家庭でも職場でも特別の事は何もありません。ところが災害・事故・病気など何かが起こってしまうと、この「いつもの毎日」は突然無くなってしまうのです。

最近の例でいえば、東日本大震災や J R 福知山線の脱線事故や韓国のフェリー沈没事故を見ると、私たちの周りでも起こりうることでと考えておかねばなりません。自然災害などは仕方が無いとも言えますが、J R 福知山線脱線事故や韓国フェリー沈没は自然災害ではなく人間が起こした事故です。J R の場合、列車が 1 分とか 2 分遅れることを許さない J R の労務管理の問題が大きな要因でしょう。韓国のフェリー沈没は、会社や船員などがお金を儲けるために荷物の過積載をし、安全誘導もしなかったなど許しがたい事故です。事故で亡くなられた通勤客や修学旅行に参加していた高校生の笑顔や姿が一瞬で消えてしまい、その

人たちの家族の幸せを奪ってしまったことは、他人事とか他国の事などとは言っておれません。

そう考えると、この「いつもの毎日」や「当たり前の日々」はとても大事なことで、これからもずっとずっと続いてほしい、生活の内容そのもののなのです。

特に事業者である私たちや親御さんたちは、健康で無事に過ごすという「当たり前」の「しあわせ」を再確認しなければなりません。平凡ですが平和で穏やかに過ごすという事を大切にしたいものです。

次に思うことは、この「いつもの毎日」や「当たり前の日々」をもっともっと意識してみては？と思うのです。「いつもの毎日」は意識しなくても当たり前に行ってきますし、また明日も続いていきます。

でも「いつもの毎日」を意識すると「いつもの毎日」はまた違ったものに見えるのです。

例えばこぶしの会で、職員が A さんと一緒に毎日 20 分間散歩をするとします。

職員や A さんが意識をしなければ単に 20 分間歩くだけです。

しかしこの散歩を意識すると何らかの変化に気づきます。A さんの表情や態度の違いに気づくこともあるでしょう。草むらの花の変化もあるでしょう。季節の変化や風の強さや陽ざしの違いもあるでしょう。これらの違いに気づくか気づかないかは、この散歩を意識するかしないかで大きく変わります。また大きな視点でものを見ると人間は多様な社会で暮らしており、そ

してこれらが人間の生活の内容であり、人の感情であり、人との関係であり、また日本の奈良の風景そのもののなのです。「いつもの毎日」や「当たり前の日々」を意識すると意識しないとでは、このように大きく違ってくると思います。

こぶしの会は社会福祉法人として特別な仕事を与えられています。それは社会福祉事業をこれからもずっと継続して続けるという任務です。本来、社会福祉事業は国や地方公共団体と特別な法人である社会福祉法人しかできないものです。(最近では規制改革で、NPO法人や企業でも一部の社会福祉事業を実施することは可能になりました)

社会福祉事業は、社会の福祉の事業を行うところで、一般会社のようにお金を儲ける(利益を得る)ことを目的しているところではありません。障害者の自立や生活の向上や障害者と地域の関係改善をめざし、障害者を援助し支援しながら、「いつもの毎日」や「当たり前の日々」をこつこつと実践する場所です。

こぶしの会は今後 14 年、15 年と続きますが、職員一同が力を合わせ、障害者の仲間とその家族や関係者と共に着実に進みたいと思っています。そのためにも「いつもの毎日」や「当たり前の日々」をこれからも続け、新たな変化や発見を見つけないといけません。



新しい仲間が増えました!!

4月1日にこっからで入所式を行いました。

今年度から新たに2名の仲間とスタッフ1名が加わり総勢74名となりました。仲間の二人はどちらも地域の小中学校出身で今春、奈良東養護学校を卒業されました。



■地域の交流

今年も東市小学校から3年生(33名)が見学に来てくれました。

“障害”の学習の一環で、こっからではどんな仕事をしているのかを学ぶ目的で、各班を熱心にメモしながら回っていました。とうふの試食や紙漉き体験してもらい、みんなで協力しながら笑顔で働いていた姿を感想で話してくれました。こっから祭りでまた会おうね。



■金春さんありがとう!!

かすが共同作業所の時代から20年以上に渡って、ボランティアとして仲間たちを支えて下さっている金春芳子さんから、この度こぶしの会に対しご寄付をいただきました。

そして先日、長年のご協力とご寄付に対する感謝状の贈呈式が行われました。こっからのどのスタッフよりも長く仲間と同じ

時間を過ごしてきてくれた金春さん。大変だった時期を一緒に頑張ってきた仲間たちが順番にメッセージと感謝の気持ちをお伝えしました。これからもずっとよろしくおねがいします。



障害者福祉は今

～障害者権利条約について～

2014年1月20日、国連で採択された障害者権利条約に日本も批准しました。「障害に基づくいかなる差別もなしに、全ての障害者のあらゆる人権及び基本的自由を完全に実現すること」を目的として採択された人権条約です。

権利条約の素晴らしさは、政策過程においても「私たち抜きに私たちのことを決めないで」と障害のある人の発言にもあらわれています。

この条約は、障害のある人は自分の人生について決める力があり、社会の一員として誇りを持って生活する主人公として捉えています。すべての障害のある人が社会に参加できることを求め、社会の側は、障害者一人ひとりを尊重し、受け入れることを求めています。

これまで「障害」は、その人が持っている「知的障害」などの性質だけから生じると考えられてきました。しかし、条約では、個人の性質のために、働けなかったり、様々な活動に参加でき

なかったりするような社会の仕組みにも問題があり、そのような社会と人との関わりから「障害」が生じるとしています。

たとえば、自力で通所できない仲間も、送迎を行うことで「こっから」で仕事ができる。そのような配慮については、他の人と同じように働ける「他のものとの平等」という条文によって社会が保障していくとしています。この「他のものとの平等」は、特別な権利を求めているのではなく、あたりまえの権利として条文のいたるところに表現されています。

昨年、精神障害のある人も内科や歯科などの医療費助成を求めた運動が奈良で展開されてきました。今年に入り、精神手帳1級・2級をもつ人は、全診療科の入院・通院について助成が行われることになり、大きく花開きました。

こうした、自治体での福祉施策、国内法の整備などにも権利条約は羅針盤として位置づけられることになります。批准元年の今年、私たちの声をしっかりと国に届けていきたいと思っています。

2013年度 決算公告

事業活動収支計算書

自：2013年4月1日 至：2014年3月31日

単位：千円

勘 定 科 目		決 算 額
就労支援活動収支	就労支援事業活動収入	26,421
	就労支援事業活動収入計 ①	26,421
	製造原価及び仕入高	24,815
	販売及び一般管理費	1,941
	就労支援事業活動支出計 ②	26,756
	就労支援事業活動資金収支差額 ③=①-②	-335
福祉事業活動収支	自立支援費等収入	167,588
	その他収入	20,789
	福祉活動事業収入計 ④	188,377
	人件費支出	137,959
	事務費支出	20,799
	事業費支出	15,977
	減価償却費・引当金繰入	2,640
	福祉事業支出計 ⑤	177,375
	福祉事業活動資金収支差額 ⑥=④-⑤	11,002
事業外活動収支	事業活動外収入計 ⑦	87
	事業活動外支出計 ⑧	378
	事業活動外支出差額 ⑨=⑦-⑧	-291
	経常収支差額 ⑩=③+⑥+⑨	10,376
特 別 収 支	特別収入計 ⑪	0
	特別支出計 ⑫	0
	特別収支差額 ⑬=⑪-⑫	0
	当期末繰越活動収支差額 ⑭=⑩+⑬	10,376
繰 越 収 支 の 部	前期繰越活動収支差額 ⑮	145,099
	当期末繰越活動収支差額 ⑯=⑭+⑮	155,475
	次期繰越活動収支差額	155,475

貸借対照表

2014年 3月31日現在

単位：千円

【 資 産 の 部 】		【 負 債 の 部 】	
流動資産	77,776	流動負債	7,315
現金預金	46,768	短期運営資金借入金	0
未収金	28,886	未払金	1,189
貯蔵品	79	他流動負債	6,126
他流動資産	2,043	固定負債	20,950
固定資産	265,553	設備資金借入金	20,250
基本財産	234,672	長期運営資金借入金	0
その他固定資産	30,881	入所者借入金	700
建物	3,542	負債の部合計	28,265
構築物	1,306	【 純 資 産 の 部 】	
建物附属設備	11,013	基本金	50,840
機械及び装置	337	(第1号基本金)	(50,840)
車輛運搬具	4,626	国補等特別積立金	104,249
器具及び備品	4,786	その他の積立金	4,500
無形固定資産	771	次期繰越活動収支差額	155,475
工賃変動積立預金	500	次期繰越活動収支差額	
設備等整備積立預金	1,000	(うち当期活動収支差額)	(10,376)
その他積立預金	3,000	純資産の部合計	315,064
資産の部合計	343,329	負債及び純財産の部合計	343,329

※注 上記決算書は当法人の3つの会計(①就労支援事業会計②福祉事業会計③公益事業会計)を合計した、法人全体の収支計算書及び貸借対照表です。

変わらない必要なニーズ

ふゆーちゃーの支援に日中一時支援というものがあります。

もともとは日帰りショートステイ事業で、かたつむりという事業所で行っています。かたつむりは4年前の6月に開所されて、これまで毎年、1周年記念、2周年記念…と称して、6月に皆でイベントをしています。今年は4周年なのですが、少し事情があり、記念イベントは6月ではなく、少し時期をずらす事になりました。

かたつむりでは通所施設(こっから等)を利用された後、夕方～夜間に利用する方が多かったのですが、今年度に入り、『こっからを利用した後にかたつむりを利用するのは原則不可』と市より指導がありました。

特別な事情がある場合は、個別に認められる事もあるようなので、今後は個別事情を市と協議しながら利用できるかどうかを相談していく事になります。その個別相談の結果が出るのは6月いっぱい迄かかりそうで、4周年記念の企画は少し時期をずらして行う事にしたいと思います。

かたつむりは基本的に日帰りと宿泊ショートステイの事業所ですが、この2つは法人が無認可の頃から常にニーズとしてありました。(入所型の)施設を資源として持たない当法人にとっての大きな課題なんだと思います。

実施していく中で提供形態も場所も何度も変わりました。大きな変化で存続自体が危ぶまれたことも、これがいったい何度目の事か…という次第です。

しかし、逆にそれだけ制度や状況が変わっても、変わらない必要なニーズとして10年以上存続させ続けてきたともいえます。今回も前述のような大きな変化にみまわれますが、変わらない必要なニーズというところに立ち戻って、長期的な視点での対応が必要だと思います。

(文責 藤井浩司)



昨年の3周年の様様

4月になって



新しい仲間が加わり、総勢12名の班となりました。今年も例年に引き続き、仕事と活動を中心に送っていきます。4月に入り早速、季節に触れる取り組みとして、花見や散歩へ出掛けたり、「桜を描きたい」と写生へも行きました。5月に入り、「野菜を育ててピザを作ろうか」と苗植えもしました。

4月に行った調理では、「ハンバーガー・ハンバーガー・ロールキャベツ・うどん・ケーキ」と候補があがり、一人ひとり写真を見ながら選び、多数決で「ケーキ」になりました。

ケーキに決まっても、どういうケーキにするか…で話し合い、「新しい仲間と職員が来たから、お祝いホールケーキを作ろうや!」「生地作りはめんどうやから、出来てるスポンジを買ったら?」「ケーキの中身は?」「どれくらい買ったら良いかな?」「誰が買いに行く?片付けは誰がする?」などなど決める事はたくさんです。それでも、一つ一つ決めてやりこなして出来たケーキは本当に美味しく、満足感と達成感に満ちています。食べ終わると、「次は何をする?」と早速話しが広がります。活動では、仕事では見られない仲間の表情や行動がたくさん見られます。そして、集団としての力もアップされているように感じます。もちろん、本業の紙漉き作業も頑張っています。一人一人が出来る力を伸ばし、「これが私の仕事です」と言える役割を持っています。頑張った後の休憩のお茶がまた美味しい!メリハリを持ちながら、12名がワイワイ、ガヤガヤとにぎやかに、そして肩を寄せながらギューギューになって、皆の思いがたくさん込められた紙作りに勤しんでいます。

(文責 寺嶋真理子)

施設外就労



すたあとでは月に一度、お隣にある太陽食品という食品健康会社の一室をお借りして、6000部を越えるパンフレットを袋に入れる封入作業を行っています。

企業の中で社員さんともゆるやかな交流を行いながらの仕事は、一定の緊張感と刺激があります。仲間・職員の小集団の関わりから枠を超えて得られるやりがいは、社会の中に私たちのほたらきが求められていると実感できることだと思います。

「こっから」や「ここに」のように、販売という手段を通して地域とつながる機会が少ない分、仕事を共有することで「わけへだてのない社会」が作られる貴重な時間でもあります。

休憩時には、ハトムギ茶やお菓子の差し入れがあったり、社員の方に名前を覚えていただいたり、月に一回3日間の「施設外就労」を楽しみにしています。

(島 耕治)

ここに市 2014 春



毎週水曜日に開催している「ここに市」。厳しい冬の影響もあってか近隣のスーパーなどの野菜価格が高騰する中で、地元農家から直接仕入れている私たちは、価格は抑え目に設定できており、地域のお客様に喜んでいただいております。

ここ1年で大きく変わったのは、惣菜の製造・販売を始めたこと。毎回ご飯ものが1種類、野菜をたっぷり使ったお惣菜が2種類ほど店頭に並びます。これを目当てに来店される男性のお客様もいらっしゃいます。これまでは女性のお客様がほとんどだったので、うれしい変化です。お客様の好みを探りつつ、毎回メニューを何にしようかと頭を悩ませています。この他に近隣の事業所へ、仲間と一緒に野菜や惣菜を持つての訪問販売も始めています。

仲間達も、出来ることを探りながら、増やしながら、頑張ってくれています。1人でお客様のご自宅まで配達に行けるようになった仲間も。最近よく思うのは、もう少し一緒に仕事をしてくれる仲間が増えてくれたらということ。これも仕事が増えているから。来てくださるお客様が増えているから。このご時勢、とてもありがたい話です。

近々、奈良市からお買い物支援サービス冊子というものが発行されますが、ここに市もそれに載せていただくことになりました(公共機関等で閲覧可)。これをきっかけに、私たちのことをもっと多くの方に知っていただけたらうれしいです。

(新谷 和博)

ありがとうございました！
寄 贈

<カーブス様より>



今年もカーブス様よりフードドライブの取り組みで会員の皆様からご提供いただいた食料品を寄贈していただけることになりました。

今回も、頂いたたくさんの食材品の一部はここにや、こっから食品製造班や活動班のお菓子づくりにその他の食品や食料品は2箇所のケアホームと短期入所等の居宅支援事業所で大切に活用させていただきます。

ご提供下さったカーブス会員の皆様本当にありがとうございました。

<近畿セキスイ労働組合様より>



近畿セキスイ労働組合の皆様から、この度こっからへご寄付の申し出をいただき給食のお味噌汁等を温めるスープジャーとパン工房で必要な器具を頂くことになりました。

これまでも、パソコンやプロジェクター等を寄贈いただき今回で3回目となります。

大切に活用させていただきます。ありがとうございました。

<こぶし後援会様より>



こぶし後援会からご寄付を頂き、「すたあと」1階の床を張替え、お隣の「太陽食品」という健康食品会社のハトムギの選別作業を行えるようになりました。

これにより、「すたあと」で行える仕事の幅と収益が増えました。

白衣に着替え、衛生面に注意を行うことにより、今までにない緊張感のある仕事に取り組むことが出来ています。「仕事の気分が変わり、集中して仕事もできる」と仲間のやりがいにつながっています。

また、「ここに」でも後援会からのご寄附により、玄関のガラスを、これまでのすりガラスから、透明のガラスに取り換えさせていただきました。これまでは、せっかくここに市をやっているもお客様が中の様子が見えないから、入りにくいというご指摘がありましたが、これによりとても見えやすく、また外の光も入り、店内も明るくなりました。

ありがとうございました。

編集後記

四十肩になり、色んな治療を試しましたが、なかなか治らず長い間苦勞していました。それがとある鍼灸院さんと出会って、それまでのことが嘘のように数回の通院で痛みがピタリと止まったのです。治療はというと、鍼治療や電気、お灸、マッサージで、これは言い換えると「ほぐす」「和らげる」「温める」「緩める」ということです。簡単なことのようにですが、ひとの体にとって実はとても大事なことでと改めて実感できました。そしてこのことは、私たちの仕事(対人援助)にも共通することではないかと思うのです。企業就労支援のスタッフさんから、「大事なことは、とにかく話を聴くこ

とです」と教えられました。自身の障害を受容する機会を持ってないまま、辛いじめや引き込みを体験してきた仲間たちにとって、ありのままを受け止めてもらえること、安心して不安が表明できること、そんな「ひと」や「場所」との出会いが、これまで自分が苦しんできたことの「なぜ?」に気づき、次のステップへと世界が広がるとても大切なきっかけとなります。傷ついたり、冷たくなったり、固まったり、強ばったり、閉ざしてしまった「ところ」が、温まったり、和らいだり、ほぐれていったりするような…。そんなひとや場所です。これからもありたいと思います。(古木 一夫)

こちらも
ご覧下さい

<http://kokkara.jp/>

・ネットショップ
・活動ブログ
・ニュースブログもお楽しみ下さい。